

## 第7回世界水フォーラム デイリー速報 プレ号

4月12日(日)から、いよいよ第7回世界水フォーラムが始まります



### 1. はじめに

第7回世界水フォーラムが4月12日より、韓国・大邱市および慶尚北道を会場として始まります。

世界水フォーラムのアジア開催は、2003年、第3回世界水フォーラムが日本の琵琶湖・淀川流域で開催されて以来12年ぶりです。

今回も日本から、産官学民すべての分野から多くの水関係者が参加し、地球規模で取り組むべき水問題の解決に向け、様々な取組を予定しています。

日本水フォーラムでは、第7回世界水フォーラムの会期中、会議の様様や日本からの参加者の活動について、現地から速報を配信します。

### プレ号

1. はじめに
2. 第7回世界水フォーラムの  
スローガン“Water for Our Future”
3. 注目プログラム
4. デイリー速報発行予定

## 2、第7回世界水フォーラムのスローガン“Water for Our Future”

### ◆世界の水の未来 日本の水の未来



市中に掲げられたフォーラム歓迎横断幕

今回、スローガンに「未来」が掲げられる背景は、世界が直面する「水の変化」に対する危機感です。

地球規模の気候変動と急激な人口増加の中で、もたらされる水の変化は、水災害の危険性の増大、食糧危機、都市の衛生問題の悪化などを招き、人類の大きな脅威になります。これらの課題に対して、グローバルな視点に立ったローカルなアプローチを多様なセクターから展開させていくことが第7回世界水フォーラムの大きな意義といえるでしょう。

これまで世界の水問題の課題克服に向けたベンチマークとなってきたのが「国連ミレニアム開発目標(MDGs)」ですが、最終目標年を迎えた現在、ポストMDGsの役割を担う「持続可能な開発目標(SDGs)」の策定議論が佳境に入っています。したがって、持続的な未来の構築に向け、水関連課題から、いかにアプローチできるかが今回の世界水フォーラムの、重要な焦点のひとつになります。

本年はまた、「国連気候変動枠組条約(UNFCCC)」の「第21回締約国会議」が開催される年でもあります。気候変動に伴う水の変化は今や、わが国の身近な所にも大きな影響を与えているばかりか、国際的な水問題も決して日本に無縁ではありません。水災害や食料・農業の問題をはじめとする多くの課題が、わが国の経済活動や人々の生活・家計に直接影響を与えているのです。

世界の水の未来は、日本の水の未来に直結するものです。第7回世界水フォーラムの会期中、現地から配信する速報では、日本の取組を中心として、その当事者意識にも光を当てながら、日々の模様をお伝えしてまいります。

## 3、注目プログラム

日本水フォーラムは、アジア・太平洋水フォーラム(APWF)事務局として地域プロセスの主導、日本政府主催日本パビリオンの企画・運営、京都世界水大賞の主催など、主要な取組に携わっています。

- » [第7回世界水フォーラム アジア太平洋地域プロセスに関する詳細はこちら](#)
- » [第7回世界水フォーラム 日本パビリオンに関する詳細はこちら](#)
- » [第4回京都世界水大賞に関する詳細はこちら](#)

## 4、デイリー速報発行予定

4/10 (金) : プレ号	4/13 (月) : Vol.1	4/14 (火) : Vol.2
4/15 (水) : Vol.3	4/17 (金) : Vol.4	4/20 (月) : 最終号

※予告なく変更することがあります。

発行：特定非営利活動法人 日本水フォーラム  
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町5-4 アライズ第2ビル6階 URL: <http://www.waterforum.jp>  
取材協力：日本水道新聞社 東京都千代田区九段南4丁目8番9号 日本水道会館1F URL: <http://www.suido-gesuido.co.jp>  
※この速報は、日本の皆様に、世界水フォーラムの議論の内容や、日本の関係者の皆様の活動をお伝えするために、日本水フォーラムがとりまとめているものです。内容は、速報暫定版のため後日修正されることがあります。発行予定は予告なく変更することがあります。

## 第7回世界水フォーラム デイリー速報 Vol.1

第7回世界水フォーラムが始まりました！！



左から、第7回世界水フォーラム国内委員会よりリ・ジュン・ムー委員長、第7回世界水フォーラム国際運営委員会より共同委員長のベネディクト・ブラガ氏、同じくイ・スタク氏、クォン・ヨンジン大邱広域市長、キム・グァンヨン慶尚北道州知事

### 1、第7回世界水フォーラム 盛大に開幕 朴大統領が歓迎の言葉

第7回世界水フォーラムが4月12日、韓国・大邱市、慶尚北道で開幕しました。スローガンは“Water for Our Future”。世界170カ国から約35,000人の参加が見込まれ、テーマ、政治、地域、そして新たに科学技術を加えた4つのアプローチにより今日的な水関連の様々な課題が6日間にわたり議論されます。

大邱・EXCOで開かれた開会式では、開催国・韓国から朴槿恵大統領、権泳臻大邱広域市長、金寛容慶尚北道州知事らが歓迎の言葉を述べた他、5カ国の元首からのあいさつ、キング・ハッサン2世世界水大賞の授賞式などが行われました。

開会式後には第7回世界水フォーラム主催者による記者会見が行われ、会場には韓国国内メディアをはじめ、アジア、欧州、中東など世界中からメディア100名以上が詰めかけました。

### Vol.1

1. 第7回世界水フォーラム 盛大に開幕 朴大統領が歓迎の言葉
2. 問われるSDGsへの水と衛生の関与 防災・安定性 日本の発信に期待
3. 官民一体で 日本パビリオンがオープン

#### 特集1、今日の“人”

日本水道協会理事長  
尾崎 勝氏

#### 特集2、今日の“言葉”

日本水フォーラム  
マネージャー 近藤 かおり



## 1. 問われるSDGsへの水と衛生の関与 防災・安定性 日本の発信に期待



第7回世界水フォーラム  
グランドオープニング

議論の焦点の一つは、ポスト「国連ミレニアム開発目標(MDGs)」として、今年9月に国連総会で採択予定の「持続可能な開発目標(SDGs)」に対する水分野への関与です。MDGsで目標値が達成されない衛生施設に関する課題の重点化や、持続可能な成長を図る上で網羅されるべき課題の抽出が鍵となります。日本は、東日本大震災の教訓や水循環基本法の理念等を踏まえ、水災害対策や水質・環境、水インフラの安定性と強靱性、公共性の理念など、持続に不可欠な要素を見極めていく必要があります。

## 3. 官民一体で 日本パビリオンがオープン



EXPO & FAIRでは、産官学民が一堂に会する日本パビリオンがオープンしました。健全な水循環の構築に向けて、日本の国際貢献と、日本が誇る多様な技術をアピールしていきます。オープニングでは、主催者から国土交通省九州地方整備局の宮本健也河川調査官、出展者から日本水道協会の尾崎勝理事長があいさつ。日本水フォーラムの竹村公太郎事務局長をはじめ、出展者皆様一同の思いを込めてダルマに目を入れ、成功を祈願しました。

大邱でチームジャパンの機運が高まります。

### 今日の人

尾崎 勝氏  
理事長  
日本水道協会



日本パビリオンの開会式では、より一層多様化する世界の水課題に対し、日本の高い技術力で貢献していきたいと意気込みを語った尾崎理事長。厚生労働省水道課・日本水道協会共同ブースなどでも、さっそくIWA専務理事ゲール・ベルカンプ氏など外国要人と打ち合わせをする姿がありました。

### 今日の言葉



日本水フォーラム  
マネージャー 近藤かおり

今回の日本パビリオンは、「出展ブース間の仕切りを無くすことで、官民一体感を演出しました。お客様の回遊性も高まり、対外的な発信力を追求しています。」

和のテイストを全面的に演出し、おもてなしスペースでの対応も強化するなど趣向を凝らし、日本らしさをアピールしています。

## 第7回世界水フォーラム デイリー速報 Vol.2



### 1、閣僚宣言 科学技術の推進に脚光

4月13日、慶州市・現代ホテルを会場に閣僚会合が行われ、閣僚宣言がまとめられました。

宣言は、統合水資源管理やグリーン成長など7つの視点で構成され、このうち水災害については、3月に仙台で開かれた国連世界防災会議の成果を踏まえた宣言となりました。今後増加する水災害に対する備えと強靱性の強化が急務であることを指摘した上で、流域レベルでの適切な国土管理・統合水資源管理、すなわち持続可能な水管理と計画が不可欠であることが強調されました。日本が主張する防災の主流化、水循環の視点が重視されていると言えるでしょう。また、韓国政府が今回の会合で強調する水問題解決に対する科学技術の重要性が盛り込まれたことも大きな特徴となりました。

Vol.2

1. 閣僚宣言
  2. 日韓中 水担当大臣が共同宣言
  3. 地域プロセスも慶州でスタート
  4. サニテーションを世界でリードJSC
  5. 「水・食・農」水田水管理ネットの展開 INWEPF ワークショップ
- 特集 1、今日の“人”  
特集 2、今日の“言葉”

## 2. 日本・韓国・中国 水担当大臣が「水政策革新」へ共同宣言



日本、韓国、中国 3 カ国による水担当大臣会合が 4 月 13 日に慶州市・現代ホテルで開かれ、太田昭宏国土交通大臣と韓国の柳一鎬国土交通部長官、中国の Jiao Yong 水利部副大臣が共同宣言を発表しました。宣言のテーマに「水政策革新のための協調的行動」を掲げ、水関連部門にさらなる資金投資を得るため、水政策の革新と改良が各国で促進されるべきとの認識に合意しました。

## 3. 地域プロセスも慶州でスタート



世界水フォーラムは、政治、課題、地域、科学技術の4つのプロセスに分類して議論を集約していきます。地域プロセスのアジア太平洋地域に関する議論はアジア・太平洋水フォーラム (APWF、事務局＝日本水フォーラム) がとりまとめ役を担います。アジア太平洋地域では、気候変動、食糧、グリーン成長など幅広い視点から 11 のグループセッションを展開します。日本の機関では水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) が洪水リスクと水災害、アジア河川流域機関ネットワーク (O、事務局＝水資源機構ほか) が統合的水資源管理に関するセッションを主催します。15 日には、

同地域のファイナルセッションが開催され、水問題解決にむけた具体的な行動計画が発表される予定です。

## 4. サニテーションを世界でリードするJSC



日本サニテーションコンソーシアム (JSC) はヴェオリアと、テーマプロセスにおいて「リサイクルと再利用—都市のための有益な資源」を開催しました。モナコ公国大公のアルベール2世をはじめ約 100 人が参加。世界各国におけるリサイクルの現状や民間からの提案など水の再生、再利用に関する認識の共有が行われる中、日本における下水処理水や汚泥の再利用などの先進的な事例紹介が注目を集めました。

## 5. 「水・食・農」水田水管理ネットの展開 INWEPF ワークショップ



アジア・モンスーン地域の 17 カ国8団体が構成する INWEPF (国際水田・水環境ネットワーク) が 13 日、大邱市の EXCO 内でワークショップを開催しました。2003 年に日本で開催された第3回世界水フォーラムでの「水と食と農」大臣会議をきっかけに、日本の呼びかけで生まれた INWEPF は、水田の水管理を通じて、同会議で採択された3つの挑戦—「食料安全保障と貧困軽減」「持続可能な水利用」「パートナーシップ」—の実現に取り組むプラットフォームです。

“水田の水管理向上のための地域ネットワーク強化”をテーマとし、サイドイベントとして実施された今回のワークショップでは、日本委員会事務局 (農林水産省農村振興局設計課) や各WG担当者がこれまでの活動を振り返り、今後の活動を議論。連携をさらに強める方針を確認した上で、対象地域・分野の拡大なども提案されました。

# 今日の人

国土交通大臣 兼  
水循環政策担当大臣  
太田 昭宏氏



統合水資源管理の会合で議長を務め、水に関わる「災いと恵み」の双方の視点から防災と水循環の重要性などを発信しました。会合終了後、「水問題に対して日本が強いリーダーシップをとっていくことは極めて重要」と国際展開の方向性を話す一方、国内政策にも「これから出水期を迎えます。やるべきことはしっかり推進させていきたい」と国会での水関連法の議論、水循環基本計画の策定や8月1日「水の日」に向けた取り組みにも意欲を示しました。

環境省政務官  
高橋ひなこ氏



持続的な水管理と生態系保全の円卓会合に出席。アジア水環境パートナーシップの取り組みや、地元・岩手の北上川の公害克服を世界に発信しました。かつて栄えた松尾鉱山からの鉱毒水は、北上川下流の水環境を悪化させました。北上川の水環境対策に尽力したのが県議会議員を務めた高橋政務官のご尊父。政務官自身も、水への思いは人一倍強いそうです。「水は生きていく上で一番重要です。日本には経験と実績、そして世界で行動できるネットワークがある。必要なことはみんなでやるのが大切」と、明るい笑顔で水問題への意欲を語りました。



日本水フォーラムが事務局を務める、ノーザン・ウォーター・ネットワーク（NoWNET）。先進国間で水課題共有等を行う組織で、そのセッションが13日、日本パビリオンで開催されました。

# 今日の言葉



日本水フォーラム 副ディレクター 浅井重範

日本の叡智を世界へ、そして未来へ届けるべく、「世界と日本の架け橋となって、日本の持つ懐の深い水文化を世界の方々に知ってもらう“突破口”の役割を担っていきたい」。

発行：特定非営利活動法人 日本水フォーラム

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町5-4 アライズ第2ビル6階 URL: <http://www.waterforum.jp>

取材協力：日本水道新聞社 東京都千代田区九段南4丁目8番9号 日本水道会館1F URL: <http://www.suido-gesuido.co.jp>

※この速報は、日本の皆様に、世界水フォーラムの議論の内容や、日本の関係者の皆様の活動をお伝えするために、日本水フォーラムがとりまとめているものです。

内容は、速報暫定版のため後日修正されることがあります。発行予定は予告なく変更することがあります。

## 第7回世界水フォーラム デイリー速報 Vol.3



### 1、 皇太子殿下ビデオメッセージ 「より良い未来へ科学技術の役割は大きい」

14日に開かれた特別セッション「水と災害に関するハイレベルパネル」で、日本の皇太子殿下から英語のビデオメッセージが寄せられました。

皇太子殿下は国連の「水と衛生に関する諮問委員会」の名誉総裁をお務めになっており、第3回京都、第4回メキシコシティ、第5回イスタンブールと過去3度の世界水フォーラムでご講演され、前回のマルセイユではビデオメッセージを寄せられています。

メッセージでは、“人と水の関わり”の中で科学技術が果たしてきた役割について「災害経験を基に検証された記録は、次の災害に備えるための最善の教訓であり、これらを語り継げていくことこそが科学技術の発展につながっていく」と述べられました。そして自然の力に対しては未だに及ばないところがあるものの、「人々の知恵と工夫、何よりも強い意志と想いが、やがては水に関するよりよい科学技術を生み、より安全で豊かな私たちの未来へ発展していくことを確信している」と呼びかけ、「私たちの未来のための水がより良いものであるよう、私も努力を続けていきたい」と締めくくられました。

### Vol.3

1. 皇太子殿下ビデオメッセージ
2. 災害に関する最新知見を発表
3. 先導する閉鎖性水域のIWRM
4. 地方自治体会合 湖沼の気候変動適応策を 滋賀県・西嶋副知事が行動訴え
5. 健全な水循環島へ 産官学民の挑戦を発信 日本パビリオンで九州デー
6. 途上国の汚水処理導入で議論
7. 水資源管理のカギは情報共有 NARBO セッションに関心集まる特集、今日の“人”

## 2. 水と災害に関する最新知見を発表



ハン・スンス氏（右）、トーマス・ポステック米国陸軍工兵隊司令官（左）

水と災害に関するハイレベルパネルは、国連事務総長特使のハン・スンス元韓国首相が議長を務める、「[水と災害ハイレベルパネル\(HELP\)](#)」が主催しました。

専門家や閣僚レベルの政策担当者によってとりまとめられた「水と災害に関する水政策ジャーナル特別版」を発表した上で、これに基づいた世界的な課題を議論。長期的視点を持った投資戦略の重要性とともに、ハザードマップやゾーニングの形成など開発途上国に対するソフト面での支援の必要性が確認されました。

## 3. 先導する閉鎖性水域の IWRM(統合水資源管理)



閉鎖性水域における統合水資源管理のあり方について、滋賀大学リスク研究センター(久保英也センター長)の主催によるテーマセッションが行われました。韓国洛東江の水質管理と水利用負担金制度、日本の琵琶湖における行政と住民参加の「ハートウェア」戦略、急激な環境悪化時に金融市場から資金を調達する「環境リスクファイナンス」についてなど、欧州やアジアの研究者に加え、井戸敏三・兵庫県知事、西嶋栄治・滋賀県副知事、嘉田由紀子・元滋賀県知事、李・慶尚北道副知事ら地方行政の首脳クラスが最新知見を発表しました。

## 4. 地方自治体会合 湖沼の気候変動適応策を 滋賀県・西嶋副知事が行動訴え



地方自治体会合に滋賀県の西嶋栄治副知事が出席し、気候変動の影響により世界中で危機に瀕する湖沼水の保全の重要性を訴えました。下排水と生態系マネジメントのセッションに、スロバキア、韓国の行政担当官らとともに登壇。地表の利用可能な水の9割が湖沼に存在することを前提に、琵琶湖の取組みを踏まえながら、地方政府や国際機関による湖沼保全に関する行動の必要性を主張しました。

また、気候変動と都市化に関するセッションでは、国際湖沼環境委員会の副委員長を務める滋賀大学環境総合研究センターの中村正久特任教授が登壇し、統合湖沼管理“ILBM”の概念を提唱。同じ琵琶湖を事例に、幅広い利害関係者が一体となつての気候変動適応策が重要であるとの見方を示しました。

## 5. 健全な水循環島へ 産官学民の挑戦を発信 日本パビリオンで九州デー



日本パビリオンでは「九州デー」が開催され、国土交通省九州地方整備局をはじめ、福岡・北九州・熊本各市と大分県、九州で活躍する企業やNPO、そして九州大学がそれぞれの取組みを紹介しました。国連ハビタットのベルナード・バートウ専門官、日本水フォーラムの竹村公太郎事務局長も九州にまつわるショートプレゼンを行いました。

九州には、災害や公害、水不足といった“水の課題”を乗り越えてきた歴史があります。健全な水循環と持続的な発展の実現に向け、培ってきた叡智と技術、地域連携のあり方を世界に発信していました。

## 6. 途上国の汚水処理導入を議論



発展途上国における集合的な汚水処理の導入と管理を焦点に議論を行うテーマセッション「都市衛生と水域の保全—先進的取組みの必要性」(主催:プレーメン海外研究開発機構など)には約 80 人が参加し、段階的な処理機能の向上や技術者育成など、地域ニーズを考慮した導入手法について多くの意見が交わされました。また、パネリストの一人に国土交通省下水道部下水道企画課の若公崇敏氏も参加し、日本の下水道政策の変遷について説明しました。

## 7. 水資源管理の鍵は情報共有 NARBO セッションに関心集まる



NARBO(アジア河川流域機関ネットワーク)によるテーマセッション「IWRM のためのナレッジベース」が開かれました。水資源機構やアジア開発銀行などが設立した NARBO は、アジア・モンスーン地域における IWRM 推進を図るネットワークです。

議論を通じて、これから IWRM(統合水資源管理)を進めていくためのキーポイントは「水資源に関わるステークホルダーによる知識・データの共有」にあると確認されました。パネリストが紹介した情報共有の事例にはフロアから多くの質問が上がるなど、この場から先進的な取組みが広がっていく、そんな期待が高まるセッションでした。

## 今日の人

西嶋 栄治氏  
滋賀県副知事

滋賀県の一般職員時代に下水道課に 4 年間在職、現在の湖南中部浄化センターで当時世界を先導する水処理技術として注目された「三次処理」のコスト計算の業務などに尽力し、琵琶湖環境部長も務めています。

「私の仕事の基礎を作ってくれた職場の一つは下水道」と現場に務めた時代を振り返ってくれました。第 3 回世界水フォーラムの開催地でもある滋賀県ですが、同県が提唱して始まった世界湖沼会議は今や 16 回の歴史を重ねています。世界に誇る琵琶湖の取組みに、会合では質問が集中。

経験に裏付けられた知見をもとに自らが英語で即答されている姿が印象的でした



## 第7回世界水フォーラム デイリー速報 Vol.4



APWF 執行審議会議長ラビ・ナラヤナン氏

### Vol.4

1. アジア太平洋地域ファイナルセッション
2. 新たなプロセス 科学技術からのアプローチ

特集1、今日の“人”  
特集2、今日の“言葉”

## 1、アジア太平洋地域ファイナルセッション

アジア太平洋地域プロセスの最終セッションが15日、慶州・現代ホテルで行われました。3日間にわたり繰り広げられた同地域の重点課題に関する11セッション(水と都市、水とグリーン成長、水と食料の安全保障、気候変動・水関連災害、統合水資源管理、農村部における水と衛生、中央アジア・アラル海の危機と環境の安全保障、北東アジア地域における越境河川の統合的生態系管理、激変する水文条件下での水循環、日中韓協力、カリブ海と太平洋の地域間協力)の成果をまとめるとともに、各セクターを代表する10人の登壇者によるハイレベルパネルが行われました。パネルでは、優先行動と具体のコミットメントに焦点を当てた議論が展開され、地域としての今後の行動戦略の基礎となる諸条件、課題解決を阻む障壁、進展を促すための推進力としてのアジア・太平洋水フォーラム(APWF)への期待、指標の重要性が整理・共有されました。

### ◆政策課題としての水 一期待される法整備と資金投入

全世界の気候変動とともに、世界において最速度で進行するアジア太平洋地域の都市化と人口増加は、あらゆる水問題を顕在化させます。技術・知見の進歩、共有は進んでいますが、それを現実に組み込み・展開していくには、国や地方政府の政治的意思、法制度、資金がなければ課題は解決で





Japan Water Forum  
日本水フォーラム

きません。取りまとめでは、これを実現するための政策決定権者への働きかけが一層重要であるとの認識を共有すると共に、ローカルレベルでの現実とそこから発せられる声にしっかりと耳を傾け、両者を繋げていくことが重要であることが確認されました。同地域が積み重ねてきた努力を、課題解決を促すより強い力として糾合していこう、課題は入り組み・複雑ではあるけれども、一つ一つ着実に解決していこうというチームとしての強い意思と結束が示されました。



これらの課題認識は、開発途上国だけでなく日本にも共通するものです。ビジネスや政治家の票につながらない水問題が、政策課題に挙がらない状況は世界共通です。各国・各地域で異なる課題を、いかに政治的意思に取り入れ、法制度の実現と資金投入の促進を図るかが、水に関わるすべての関係者の行動として重要になります。セッションの席上、同地域プロセスのコーディネーターであるは、課題解決の推進力となる重要な機会として、2017年の開催が予定されている第3回アジア太平洋水サミットについて言及しました、同サミットは、第1回は2007年に日本・別府、第2回は2013年にタイ・チェンマイで開かれています。

なお、このセッションの映像は、[第7回世界水フォーラム公式サイト](#)からご覧頂けます。

## 2. 新たなプロセス 科学技術からのアプローチ



「テーマ」「政治」「地域」に加え、今回から新設された「科学技術」プロセスでは、国際機関や学識者、企業などが連日、水問題解決に向けた科学技術的なアプローチについて議論しています。

15日に開かれたセッション「洪水予測の改善による都市部における被害軽減」には、韓国水資源学会、中央大学の山田正教授、韓国洪水統制所・河川情報センター、オランダの研究機関 Deltares、国立台湾大学、スペインの公共企業

Tragsa、テキサス A&M 大学が参加。韓国建設技術研究院をコーディネーターに、それぞれが先進的なリスクアセスメントやレーダーの活用策、雨水の統合的管理手法、降雨予測の不確実性を考慮した意思決定や計画設計などが発表されました。

科学技術プロセスでは、こうした気候変動対応や災害対策のほかにも、水の有効利用促進におけるスマート管理や省エネルギー化など、最新情報の共有が進められています。

UNESCO などが 15 日に開催した科学技術プロセス「水と廃水システムのエネルギー回収と効率」では、下水処理システムの省エネ化とエネルギー回収に関する技術について議論を展開しました。約 80 人が参加した同プロセスでは、汚水から直接エネルギーを回収する手法や藻類バイオマス、微生物電池などアメリカや欧州など先進国を中心に研究や導入が進む最新の事例が紹介されるなど、下水道のポテンシャルの高さに注目が集まりました。

## 今日の人

水谷 重夫氏  
代表取締役社長



アジア太平洋地域プロセスのファイナルセッションでのハイレベルパネルに、同地域の民間企業を代表して参加。「日本の強みは、数多くの災害を乗り越えた教訓を形にして、より強靱なインフラを構築してきた実績、そして技術力と信頼です」と発言しました。フロアからの汚泥利用に関する質問に対しては、食・エネルギーに貢献する日本の技術力を発信。アジア、そして世界をフィールドに事業を展開してきた経験から、日本が世界の水問題を主導していく大切さを訴えました。

栗原 優氏  
フェロー



数々の学会会議に出席し、世界を舞台に多くの研究を発表してきた中で、これまでの世界水フォーラムは「研究者や民間企業が積極的に参加する場とは言いがたかった」そうです。しかし今回は、科学技術プロセスが新設され、氏が参加した『水の再利用と回収における高度技術とイノベーション』セッションにも、優れたモデレーターとベテランのパネリストが集結。議論を振り返り、実りある内容だったと語りました。

## 今日のトピックス



日本水フォーラム マネージャー  
戸野原 芳恵

「世界の水問題の第一線で働く人とともに働くことが、私を成長させてくれました。森喜朗会長や今回のアジア太平洋セッションで議長を務めてくださったラビ・ナラヤナンさんの言葉の一つ一つに『なぜああ言ったのだろう』という気づきがあります。世界に貢献する、世界を変えるという大きなチャレンジにチームみんなで頑張れることが日本水フォーラムの仕事の楽しさです」。

発行：特定非営利活動法人 日本水フォーラム

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 5-4 アライズ第 2 ビル 6 階 URL: <http://www.waterforum.jp>

取材協力：日本水道新聞社 東京都千代田区九段南 4 丁目 8 番 9 号 日本水道会館 1F URL: <http://www.suido-gesuido.co.jp>

※この速報は、日本の皆様に、世界水フォーラムの議論の内容や、日本の関係者の皆様の活動をお伝えするために、日本水フォーラムがとりまとめているものです。

内容は、速報暫定版のため後日修正されることがあります。発行予定は予告なく変更することがあります。

## 第7回世界水フォーラム デイリー速報 最終号



### 1、ネパールの団体に京都世界水大賞

草の根レベルで飲み水や衛生環境の改善に尽力する団体を称える賞である「京都世界水大賞」にネパールの ENPHO (Environment and Public Health Organization)が、37 カ国 110 の応募団体の中から選ばれました。

17 日の第 7 回世界水フォーラムの閉会式の中で行われた授賞式は、同賞の主催者である日本水フォーラムの進行により執り行われました。授賞式では、ENPHO 代表のスマン・クマール・シャクヤカ氏(Dr. Suman Kumar Shakya)に、同賞の協賛団体機関の代表として登壇した島津製作所の中本晃社長から大賞賞金 200 万円が手渡されました。

ENPHO は、環境に配慮した社会の創造をビジョンに掲げ、1990 年に設立。環境と公衆衛生の分野において適正な技術の開発と促進を目指した活動を展開し、政府認定の研究所を有し、エコサントイレや雨水貯留タンク、バイオサンドフィルターなどの技術促進を行っています。

### 最終号

1. ネパールの団体に京都世界水大賞
  2. DGIC に署名採択し閉幕 次回はブラジルで
  3. スマート技術で“私たちの水”へ 科学技術プロセスクロージング
  4. 第7回世界水フォーラム これからの視点
  5. 水災害の防災・減災へロードマップ案を提示
- 特集 1、今日の“人”

## 2. DGIC に署名採択し閉幕。 次回はブラジルで



閉会式会場内の様子

“Water for Our Future”のスローガンのもと、170 の国と地域から約 22,000 人が参加した第 7 回世界水フォーラムは 17 日、6 日間のプログラムを全て終え、閉幕しました。

同フォーラムで発表されたコミットメントの実行をモニタリングする枠組みとして、大邱広域市・一慶尚北道実行コミットメント(DGIC)が多数の関係者により署名され、実行を確保し、ポスト国連ミレニアム開発目標(MDGs)へ水分野の関与を強力に推進していくことなど 5 つの行動指針が示されました。 次回の世界水フォーラムは平成 30 年(2018 年)にブラジルで開催されます。

## 3. スマート技術で“私たちの水”へ 科学技術プロセスクロージング



科学技術プロセス(STP)のクロージングセッションが 17 日に開かれ、議論してきた五つの論点——効率的な水のマネジメント、上下水道システムからの資源回収、水と自然災害、水のためのスマートテクノロジー、水に関する生態系サービスの理解と管理——がそれぞれ取りまとめられました。

このうち「水のためのスマートテクノロジー」では、効率性向上とコスト削減のため、安定・安全な水供給のため、そしてすべての人に平等な“私たちの水”であるために、スマートテクノロジーが必要だと結論付けました。「水と自然災害」では、リモートセンシングと地理

情報システムの改善を進めていく、との報告がありました。

全体を通じて、気候変動や災害など地球環境の変化への対応、また水が生み出される地球環境の保全を目的とした、予測や分析、管理におけるスマートテクノロジーの活用に必要な焦点が当てられたプロセスでした。これをどのように実装し、全世界的な問題解決につなげていくかが今後の重要な論点になります。

## 4. 第 7 回世界水フォーラム これからの視点



今回ホスト国・韓国(左)と、次回ホスト国・ブラジル(右)が強く握手

急速に進む都市化と気候変動によりもたらされる水の変化とこれに伴う危機に直面している現在、安全と持続性に配慮した強靱なシステムの構築と水環境汚染を招かない対策の実行が、長期的な投資効率を高めるために不可欠な視点です。

第 7 回世界水フォーラムでは、主要ターゲットとなる SDGs の策定、COP21 へのアプローチに向けて、投資の必要性を政治意思に入れ込むこと、そして長期的視点に立った効率的な投資を図ること、これらの視点に立った包括的アプローチの必要性が確

認められました。

長年日本が提唱してきた防災の主流化、予防保全という考え方が、各宣言に盛り込まれていることに、注目したいところです。

十分な水の確保と安全な水の供給、衛生へのアクセス、そして水災害に対する事前対策そのものが持続可能な開発に資するという認識を、国際的に共有していくことが一層求められると言えるでしょう。

## 5. 水災害の防災・減災へロードマップ案を提示



水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)などは17日、水災害に関する7つのセッションを統合したテーマプロセス「変化への対応:防災、減災に向けたリスクと不確実性のモニタリング」を開催し、各国の国際機関や学識者らが各セッションの成果を基に今後の取組み目標などを示した「実行ロードマップ(案)」について議論を行いました。案では「リスクマネジメントに向けたガバナンスの強化」「リスク低減にむけた投資」など4項目を目標に、各関係者の取組みを定期的に集約し情報共有を行うことなどが盛り込まれています。なお、同プロセスの意見を

踏まえた最終的なロードマップは5月中頃の公表を予定しています。

## 今日の人

水資源機構  
理事 甲村謙友氏



アジア太平洋地域プロセスの日中韓水資源フォーラム等の会議に登壇し、わが国の災害教訓をもとにしたインフラのあり方について説明しました。強調するのは3月に仙台で開かれた第3回国連防災世界会議の成果に示された「防災の主流化」です。「生命と財産を守り、将来的なインフラ投資を最小限にするには予防保全対策が不可欠」と日本の経験を世界に発信しています。今回のフォーラムの成果を尋ねると「議論の後の実行が大切です」。視線はすでに未来を見据えています。

## ■日本水フォーラムからお知らせ

第7回世界水フォーラム報告会(仮称)を開催します。

日程: 2015年6月24日(水)

場所: 東京都中央区銀座

詳細等は、ニュースレターやウェブサイト等でご案内予定です。

第7回世界水フォーラムに向けた準備会合の様子は[こちら](#)からご覧頂けます。

日程: 2015年2月20日(金)

場所: 衆議院第一議員会館

発行: 特定非営利活動法人 日本水フォーラム

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町5-4 アライズ第2ビル6階 URL: <http://www.waterforum.jp>

取材協力: 日本水道新聞社 東京都千代田区九段南4丁目8番9号 日本水道会館1F URL: <http://www.suido-gesuido.co.jp/>

※この速報は、日本の皆様に、世界水フォーラムの議論の内容や、日本の関係者の皆様の活動をお伝えするために、日本水フォーラムがとりまとめているものです。

内容は、速報暫定版のため後日修正されることがあります。発行予定は予告なく変更することがあります。